

(昭和59年2月1日現在)
 人口 21,685 (+13)
 男 10,722 (+11)
 女 10,963 (+2)
 世帯数 6,486 (+4)
 —人のうごき(1月中)—
 転入 62人 転出 56人
 出生 23人 死亡 16人



まくべつ

||||||| 生きる喜びを創造するまち・幕別町 (新総合振興計画) |||||



双子姉妹がひな祭り

中村豊利さん(明野)のお宅では、^{ますみ}加美ちゃん・^{いくみ}如美ちゃん(昭和55年10月17日生まれ)の双子姉妹が、ひな祭り、を迎えます。母親の陽子さんは「生まれた時は未熟児でしたが、こんなに大きく元気な子に成長しました」と、うれしそうに話していました。(左から豊利さん、加美ちゃん=姉、如美ちゃん=妹、陽子さん)

む町づくり



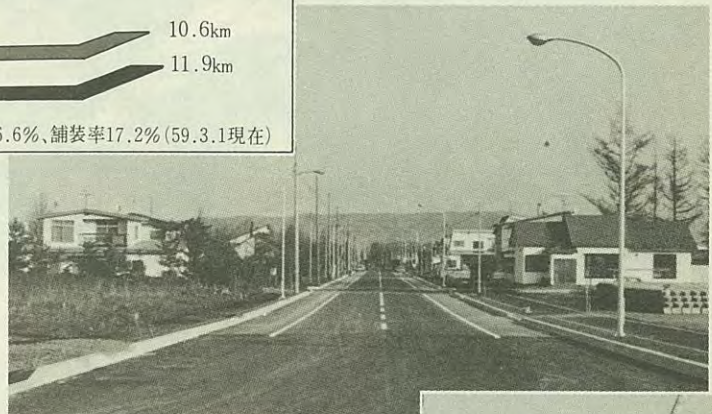
昭和五十八年度も後わずかととなりました。町民一人ひとりの声をたいせつにし、すべての町民でつくる行政、最少の経費で最大の効果を上げる行政、健全財政を基本とした、事業計画が終了しました。そこで、今年度行われた主な事業についてお知らせいたします。

快適で心安らぐ町づくり

●町道整備状況 (昭和58年度)



改良率36.6%、舗装率17.2%(59.3.1現在)



町道・街路など22.5kmに及ぶ舗装・改良工事 (写真=曙通り)



市街化区域内の秩序ある発展を図り、都市施設の整備を促進 (写真=札幌北區画整理)



下水道は幕別市街(鉄北)が五月から供用開始 (写真=終末処理場)

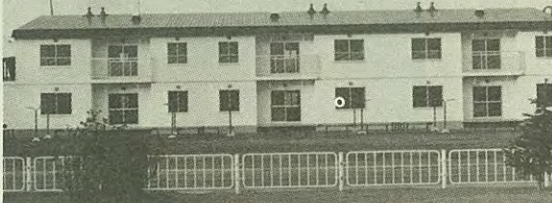


暮らしの中にゆとりと安らぎを与えてくれる公園の整備 (写真=依田公園)

●公営住宅状況

町営住宅 598戸

道営住宅 264戸



増大する住宅需要に対応する公営住宅の建設 (写真=桂町団地)

あたたかな心で包む町づくり



老人に思いやりと生きがいを持って暮らせる環境づくり (写真=トレセンで冬季用ゲートボールを楽しむお年寄り)

行った主な事業

道路

●^{おほの}曙通り(緑町)街路事業【改良266㎡、水銀灯6灯、舗装320㎡、5,567万5千円】●春日団地道路6号整備事業【改良舗装221㎡、835万円】●幕別・札内線(春日町～猿別)改良舗装工事【改良200㎡、舗装450㎡、4,628万円】●西糠内2期地区農免農道整備事業【改良732㎡、舗装1,880㎡、1億3,170万円】

公園

●明野ヶ丘公園整備工事【照明灯5灯、水飲台2基、便所、植栽、園路・駐車場造成、5,165万円】●依田公園整備工事【フェンス、ダッグアウト、芝生1,366平方㎡、植栽、970万円】

住宅

●桂町団地・新緑町団地公営住宅建設事業【桂町団地＝1棟6戸2階建て、4,460万円・新緑町団地＝2棟8戸、1棟4戸建て、5,208万円】

下水道

●公共下水道整備事業(幕別地区)【終末処理場＝電気機械設備工事、防水給水工事、水質試験器具購入、3億8,880万円、污水管布設(幹線・支線)工事3,548㎡、3億4,740万円】

区画

●札内北土地区画整理事業【移転補償22件・1億2,160万円、移転補償調査991万円、道路測量設計463万円】

福祉

●老人医療費助成(58年3月～11月)【2,469件・1,264万円】●児童手当支給【支給対象人員485人・2,693万円】●敬老祝金給付【給付対象者753人・1,061万円】

学校教育

●札内南小学校増築事業【4普通教室、便所、特活室、514平方㎡・8,398万円】●白人小学校屋外環境整備事業【グラウンド、駐車場造成1,508万円】

社会教育

●トレーニングセンター建設事業(第二期工事)【総面積2,016平方㎡、トレーニング器具2億197万円】●緑町近隣センター建設事業【168平方㎡・1,700万円】●本町近隣センター建設事業(旧幕別郵便局舎改修)【284平方㎡・950万円】

農業

●糠内第二地区道営畑地総合事業【明きよ排水2,394㎡、暗きよ排水6㎡・1億5,140万円】●町営育成牧場整備事業【草地改良13.5㍉、ふん処理施設・1,219万円】●町有林造成事業【植栽、間伐、延べ面積129㍉805万円】●駒島道営畑地総合事業【暗きよ排水56㍉・4,570万円】

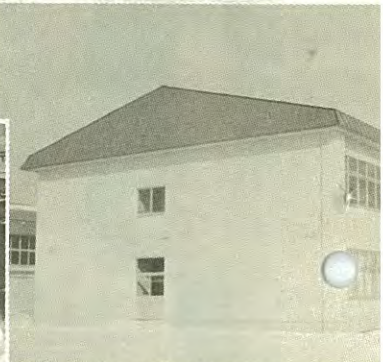
商業

●商店街街路灯設置事業【幕別市街86灯、札内市街40灯、1,880万円】

昭和58年度事業から

着実に歩

教育の輪を広げる町づくり



次代を担う子供たちを育てる学校施設の整備(写真＝札内南小学校校舎増築)



地域でふれあう心と気軽に体力づくりができる施設の充実(写真＝トレーニングセンター)

安定した農業経営と生産性の向上を図る土地基盤整備(写真＝糠内第2地区道営畑総事業)

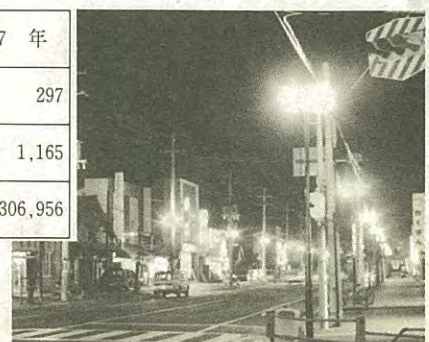


豊かさや活力のある町づくり

●商業統計(3年ごとの調査)

区分	年	54年	57年
商店数		265	297
従業者数		1,052	1,165
販売額		1,940,463	2,306,956

(単位：万円)



魅力ある商店街へイメージアップした街路灯の一斉更新(写真＝幕別市街の街路灯)

寒さ忘れて笑いと歓声



大喜び! 「ワーイ、滑る滑る」子供たちの人気が集まったファミリージャンボ滑り台

まくべつ 第2回 冬まつり

町民みんなが、雪と氷に親しみ楽しく過ごそうと、二月十八、十九日の両日、第二回冬まつりが運動公園で開かれました。会場には、町民が職場・団体ごとに製作した雪像が並び、氷で作った滑り台に子供たちの人気が集まっていました。アトラクションでは、参加者のユーモラスな動きに観客は大喜びでした。

舌戦

ヨーイ、ドン!でスタートした雪上人間ばん馬競争。にんじならぬパンの前で舌をペロリ。こっけいな動作に観客は大爆笑



だれ?

どこかで見たことのある顔。そう……林町長です

懸命

ウーマンパワー爆発!この力強い顔。女の意地をかけて、ヨイシヨイシヨ。応援する人も力が入りました



人気者

マスコットくん、子供たちに囲まれ楽しそう



4月から

使用済み乾電池分別収集へ



水銀汚染

ゴミとして出される乾電池や、蛍光灯などに含まれる水銀による環境汚染が心配され、これら有害ゴミの回収・処理が新たな問題になっています。いっしょに考えて見ませんか。

「水俣病」が熊本や新潟に悲惨なつめあとを残したことは、日本人にとって忘れられません。メチル水銀が廃水に含まれて流出し、魚介類に濃縮され、それを人が食べたために起こったとされています。この公害は世界的にも注目を集め、環境保全のたいせつさを警告する役割を果たしました。ところが、家庭の中に水銀を使った製品がたくさん出回っています。特に電化製品に多く、水銀電池(ボタン形)、アルカリ乾電池、マンガン乾電池、蛍光灯などがあり、近年ますます増加する傾向にあります。水銀体温計、印肉、鏡、薬品なども多量の水銀を使っています。これらは消耗性が強く、一般家庭ゴミの中に含まれて排出され、環境汚染の新たな問題を投げ掛けています。

有害ゴミの中でも、特に問題なのが、カメラ・ラジオ・時計・おもちゃなどに使われている乾電池です。五十七年



左からマンガン乾電池、アルカリ乾電池、ボタン型水銀電池

度のわが国の乾電池の生産量は約二十六億個で、一番多いのが筒形のマンガン乾電池(写真①)の約二十億個、次いで筒形のアルカリ乾電池(写真②)の約四億個、ボタン形の水銀電池(写真③)は約八千万個となっています。最近アルカリ乾電池が強力で長持ちすることから急増し、カメラや補聴器などに使うボタン形の水銀電池も増えています。これら乾電池や水銀電池は国内で年間約十四億八千万個が消費され、その中に使われている水銀量は五十五トニなります。種類別内訳をみると、アルカリ乾電池が二十八トで最も多く、水銀電池の二

十四ト、マンガン乾電池の二トの順となっています。乾電池に使われている水銀量の九五%がアルカリ乾電池と水銀電池で占められています。

乾電池の材料の無機水銀は、水俣病を引き起こしたメチル水銀のような毒性はありませんが、埋め立てられたり、ゴミといっしょに焼却処理すると、大気中に水銀蒸気として広がり人体に影響が出るとされ、徹底した回収と安全処理対策が急務となっています。水銀汚染を心配した町では、四

乳量日本一を達成!

佐藤孝広さん(駒島)所有のトリスターミドリ・アーロエコー号が、三歳型三百六十五日間乳量で日本新記録を達成しました。

日本ホルスタイン協会の乳量検定で五十七年十月十九日から一年間の乳量が一万四千二百三十一キと普通牛の二倍以上を記録し、今までの三歳型牛の最高乳量を二十九キ上回る新記録となりました。

佐藤さんは「記録のことは全く意識していませんでした。一日当た



佐藤さんと3歳型乳量日本一のエコー号

りの乳量も高い数字ではありませんが、平均して乳を出し続けたのが新記録につながったのでしよう」とうれしそうに話していました。二月二十三日に関係者が集まり、祝賀会を開きました。

月から一般のゴミと区別しての分別収集を実施します。三月中旬に各家庭に乾電池回収用の専用袋と収集日を明示した「ゴミ収集カレンダー」を配布しますので分別収集にご協力ください。 ※水俣病 有機水銀中毒による神経疾患。しばしば言語障害・難聴・精神異常などを起こし、重症では死亡する。昭和二十八年から三十四年に熊本県水俣地方で集団的に発生。三十九年ごろ新潟県阿賀野川流域でも同じ病気が発生(第二水俣病)

「たより過ぎ ていませんか ？」 救急出動

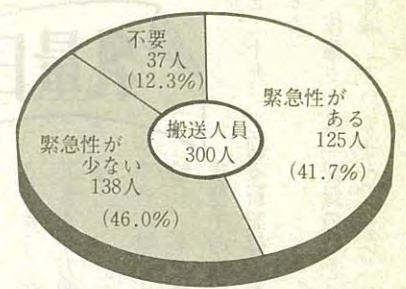
救急・火災の統計から



救急訓練をする隊員

近年、救急搬送人員は増加の一途をたどっていますが、中には、出動したけれど救急車まではと、疑問に思われるものも多く含まれています。

救急車の出動が最も多かったのは、急病の百三十七件(百三十七人)で、次いで交通事故の五十六件(八十九人)一般負傷の四十五件(四十五人)と続いています。傷害程度別では、死亡六人、重症六十八人、中等症五十六人、軽症百七十人で、軽症者の数が前年より四十五人も増えたのが、特に目



②救急車の必要性(医師の判断から)

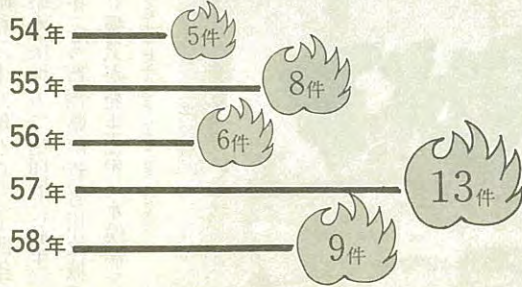
火災の損害額が 大幅に減少する

昨年一年間に発生した火災は九件(前年は十三件)で、四件減少し

り、隊員はたいへん苦勞をしています。この点については、ふだんから自分の健康状態を知っておくことや、病気やけがをしたときに、緊急を要する状態かどうかをしっかりと見極めることによつて、防ぐことができたとみられています。



ちょっとした火の不始末からこんなことに...



③過去5年間の出火件数

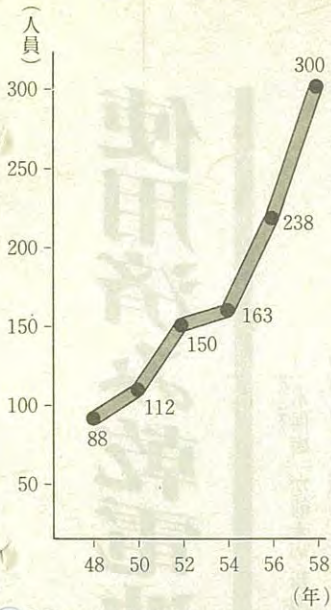
ました。内訳は建物八件、林野一件となっております。月別では一月、二月、十月がそれぞれ一件、四月が二件、五月が三件で、春先集中して発生しました。損害額は、総額で二千四百五十万円(前年は九千五百二十四万円)と大幅に減少しました。出火原因のほとんどが火の不始末で、大半はふだんから注意することによつて、防ぐことができたとみられます。

緊急性が少ない・不要 58・3%

昨年一年間に、救急車の出動要請があったのは二百九十七件と、前

幕別消防署では、昭和五十八年一月から十二月までの救急業務と火災発生状況の統計をまとめましたので、お知らせいたします。

年より六十五件の増。実際に病院へ搬送したのは二百七十二件、三百人(前年は二百三十三人)で、搬送人員が急増しました。また、グラフ①から分るように、



①過去11年間の救急搬送人員の推移

だった点です。グラフ②では、病院へ搬送した患者の病気の程度からみて、救急車を必要としたかどうかを医師に判断していただいたものです。その結果、緊急性があり救急車を必要とした人は半数に満たない百二十五人(四一・七%)であり、緊急性が少ないが救急車を必要とした人は百三十八人(四六%)。これに対し、問題は医師が「救急車を必要としない」と判定した三十七人。医師から「このような軽い患者を救急車で、しかも夜中に連れてこなければいけないのか」と救急隊員がしかられることも再三あ

グラフ③は、過去五年間の出火件数を表したものです。グラフから分るとおり、件数は若干増加の傾向にあります。一度火災を起こしますと、たいせつな財産を失うことはもちろん、尊い生命を失う恐れさえあります。一人ひとりが火災予防を十分に心掛け、快適な毎を送りましょう。

福祉ベルを設置

独居老人世帯に



独居老人の不安を解消する福祉ベル

た。

設置されたベルは十セット(二個で一セット)で、インタホンで独居老人世帯と近所の協力者の家庭を結び、緊急の場合などに連絡し合うことができる機能を持っています。

協力者は、町内会行事などを連絡したりしてお年寄りとのコミュニケーションを深めています。

突発的な病氣、事故などは独居暮らしのお年寄りにとって大きな心配ですが、独居老人の精神的不安を解消するため道から半額の補助を受けて福祉ベルを設置しまし

現在町内には、約九十世帯の独居老人世帯がありますが、福祉ベルを広く普及するため町では、来年度以降も希望者に対しては同ベルを設置していきます。希望者は、民

篠原選手健闘

サラエボ冬季五輪

第十四回冬季オリンピック・サラエボ大会が二月八日から行われました。本町出身の篠原雅人選手は二種目に出場し、五千二百四十四位、一万二千二百六十六位と郷土の声援にこたえ力走しました。

亀井君(糠内中)五百で四位

全国中学スケート



左から竹内君、佐藤さん、菅原助役、亀井君、前川教頭(糠内中)

気軽に参加してみませんか

—第7回明るいまちづくり住民大会—

みなおそう笑顔あふれるまちづくりは、わたしたちの手で、をスローガンに「第7回明るいまちづくり住民大会」が開催されます。多くの町民の皆さんの参加をお待ちしています。

◆分科会 (意見交流)

- 青少年の目が輝く健全育成を——(非行防止、地域子供会活動、家庭教育)
- 新生活運動の広がり——(資源の再利用、環境問題、一公区一品運動)
- 人生に生きがい——(これからのボランティア、老人・身障者に社会のぬくもりを)

◆日 時 3月11日(日) 午前9時30分

◆会 場 札内福祉センター

◆主 催 幕別町手づくりのまち推進委員会

二月七日から三日間、群馬県伊香保ハイランドスケートセンターで行われた第四回全国中学校スケート大会に亀井誠志郎君(糠内中)、竹内満晴君(幕中)、佐藤みゆきさん(幕中)が出場しました。男子五百で亀井君が41秒76で四位に入賞しました。

健康相談

二カ月ほど前、脳血栓で倒れ、左半身にマヒが残りました。

入院中は、病院の施設内で運動をしていますが、今、家へ帰ってきてみて、運動の必要性は感じていますが、なかなか実行できません。家庭内での訓練について知りたいのですが？

(旭町・Hさん)

Hさんの場合、倒れてすぐ専門医で診てもらい、運動療法士に訓練してもらったことが、回復の最大のポイントです。また、帰宅後の訓練についても、ある程度指示を受け、定期的受診も守っているのです。指示の範囲内で積極的に訓練していくことが可能です。

訓練のポイントとは、各関節を必ず一日一回以上、動く範囲で動かす、広がりを保つことです。

ここでは、上半身は肩、ひじ、手首、指の関節、下半身は股、ひざ、足首に関節の運動のしかた

▲肩
腕を伸ばした状態で、前と上に動かします。寝たままでも十分です。

▲ひじ
曲げ伸ばし、ひじから下の内外の回転があります。

▼手首
手首に近いところをつかみ、前後左右・回転を無理なくします。

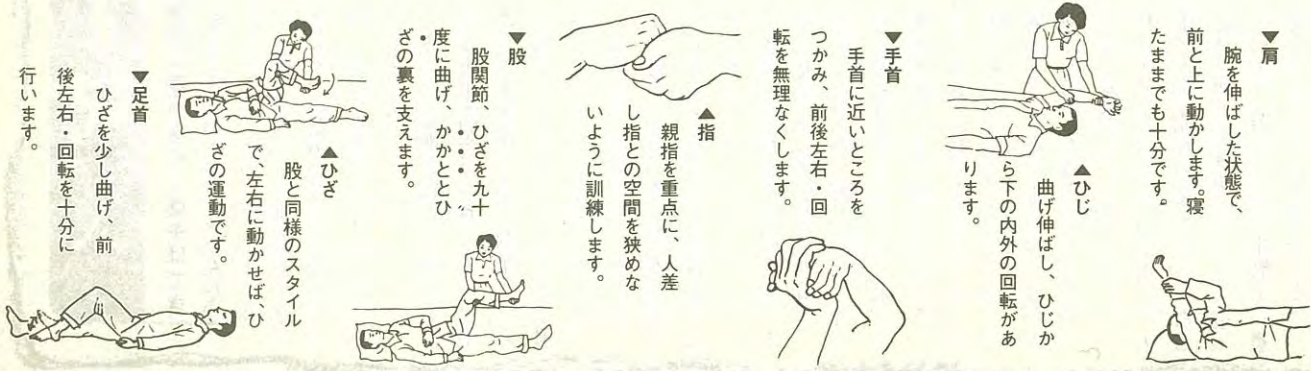
▲指
親指を重点に、人差し指との空間を狭めなように訓練します。

▼股
股関節、ひざを九十度、かかととひざの裏を支えます。

▲ひざ
股と同様のスタイルで、左右に動かせば、ひざの運動です。

▼足首
ひざを少し曲げ、前後左右・回転を十分に行います。

について説明いたします。



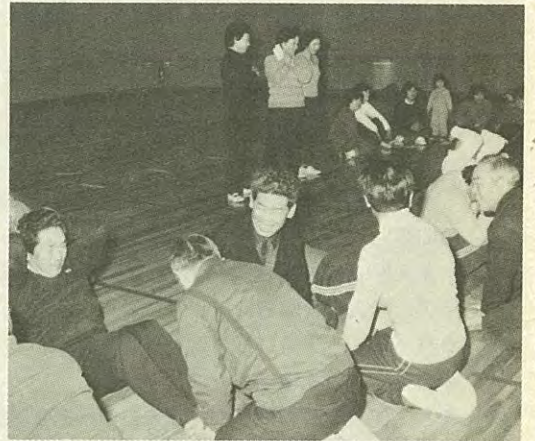


まちの ニュース



▶共同の修理工場で友達の輪!!

美川第一地区の若い農業後継者が中心になり、共同で農機具の修理工場兼格納庫を造りました。施設を利用しながら若者たちは、地域でのコミュニケーションを図っています。



▶冬の一日を楽しむ

明野地区では、二月十八日トレン、近隣センターでお楽しみ会を行い体力測定、球技、カラオケ、ゲームなどで地域の親ばくを深めました。



◀雪上ジャンボカルタ大会
子供たちが作ったカルタを使って、二月十八日、白人小学校でジャンボカルタ大会が行われ、雪の中を大きな歓声を上げて走り回っていました。



あなたの周りの のニュースを

このコーナーに地域や学校、個人のニュースを登場させてみませんか。取材にうかがいますので、役場の広報広聴係まで連絡ください。

▲8ミリ映画で最優秀賞に輝く

檀家回りの合間に8ミリカメラを回し続ける教誓寺の住職・東常念さん(寿町)が、北海道視聴覚作品コンクールで最優秀賞に輝きました。受賞した作品は、白鳥にえづけしているお年寄りと、白鳥との交歓を描いた「白鳥おじさん」です。

幕別風土記 八

北海道へ来る途中の船の中で「釧路は霧が多くて農夫はできない、見込みない」と聞いてな、急ぎよ幕別へ変更したんだ。



小川長太郎さん(88歳)
猿別304

一生懸命苦労して開墾したんだ。それが、開墾しても土地をくれないで、開墾したところでやめてしまった。

初めて土地を買って独立したのは大正四年だった。その土地は全部未墾地でな、開墾するのに朝早くから暗くなってまで働いて、たいへん苦労しました。

昔は自分の畑で作ったものばかり食べたな。魚は新巻を買うぐらいなもんでな、肉は食べなかつた。

私は、四国の讃岐出身で香川県綾歌郡富能村(綾歌町)で、明治二十九年二月二十二日に生まれたんだ。幕別へ来たのは明治四十年三月で、父と祖父、弟、姉二人、妹、それに父の弟の家族七人で来たんだ。私は十一歳の時でな、母親は、私が小学校へ入るころに別れてしまうてるから、北海道へは来ていないんだ。祖父は、初めは釧路へ入るつもりでいたんだが、それが船の中でいっしょになった人がいてな「釧路は海岸ぶちで、霧が多くて農夫はできない、見込みない」ということを聞いたもんだから幕別へ変更したんだ。そして、茂発谷で八年間、小作をやったんだ。その土地は五町歩の未墾地で、開墾したら土地を半分くれる約束であったもので、いま、若い者は一生懸命に農家をやってくれて助かるな。

アイヌ文化を伝承・保存

マクウンベツアイヌ文化保存会

昨秋、町の文化奨励賞を安東ウメ子さん(千住)が受賞したこと
をきっかけに、なんとか町内の貴重
なアイヌ文化を絶やさずに守っ
ていこうではないかという声があ
がりました。

そして、一月十七日に保存会を
作るための発起人会が持たれ、二
月十月に「マクウンベツアイヌ文
化保存会」が誕生しました。

この会の目的は、町内に伝わる
アイヌ文化を始め、アイヌ文化全

般をも研究し保存することとし、事
業としては、ムックリの演奏・ア
イヌ語の学習・アイヌ絞様の実習
・ウポポ(歌)やリムセ踊りの練
習・カムイノミ(儀式)の再現など
を徐々に取り組んでいくことにな
りました。

会員は、会の目的に賛同するな
ら、だれでも加入することができ
ます。入会を希望する場合は、会長
・安東軍次郎宅 ☎(56)2992
又は、事務局・小助川勝義宅 ☎(5

6)3400まで連絡してください。



文化保存会の設立総会

小型除雪機を寄贈

興農産業

「ひとり暮らしの老人世帯の除雪
などに利用してください」と、興農
産業(上田菊一社長)から会社設立
三十周年を記念して町へ除雪機(六
十万円相当)の寄贈がありました。



除雪機を前に目録を手渡す上田社長

卓球台三台プレゼント

幕別ライオンズクラブ

幕別ライオンズクラブ(木川拓二
会長)は、トレセンに卓球台三台
(二十四万円相当)を寄贈しました。



目録を手渡すライオンズクラブの皆さん

ひな人形を愛育園へ

太平洋建設工業労働組合

太平洋建設工業労働組合(川上憲
二支部長代行)は、十勝愛育園へ
ひな人形一式(十八万円相当)を寄
贈しました。



贈られたひな人形の前で大喜びの子供たち

「寄付ありがとうございます」

町へ……

▽渋谷五郎さん(札内中央町)か
ら妻が生前お世話になりましたと
十万円

町社会福祉協議会へ……

▽長尾玉市さん(宝町)から妻が
生前お世話になりましたと五十万
円
▽広野貢さん(中糠内)から母
が生前お世話になりましたと五十万
円
▽横山義光さん(途別)から母
が生前お世話になりましたと三万
円
▽匿名のかたから千円

老人クラブへ……

▽青木茂さん(札内新北町)から
二万円
▽小野武次さん(札内中央
町)から三万円
▽田所誠太郎さん
(明野)から一万円
▽高橋敏男さん
(明野)から一万円
▽加藤照正さん
(明野)から五千元
▽坂本博さん(新
川)から五千元
▽長尾玉市さん(宝
町)から五万円
▽広野貢さん(中糠
内)から五万円
▽小野寺アサさん
(札内泉町)から三万円
▽水野正
さん(宝町)から三万円
▽幕別大
和講御詠歌一同から五万円
▽大
和講真隆寺支部から一万円
▽山
中松美さん(西猿別)から二万円
▽横山義光さん(途別)から五万円

■その他

▽広野貢さん(中糠内)から南幕
別新生活推進委員会へ五万五千元
▽匿名のかたから交通安全協会へ
千円

新町民登場

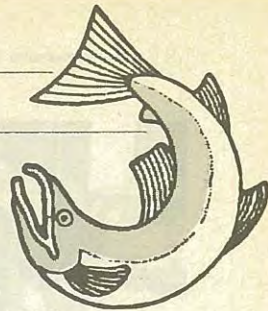


かわばた
川端まち子さん
札内桂町 560

昨年の九月に夫の転勤で、稚
内市から来ました。

稚内には五年ほど居ました
が、人情味ある人が多く、夏
には道北へロマンを求める観
光客が連日訪れます。冬は気
温がマイナス十度以下になる
ことはあまりありませんが、浜
風が冷たいです。

十勝といえば、帯広しか知
りませんでしたので幕別は田
舎だと思って(失礼)いました
が、来て見てびっくりしまし
た。マチがきれいですし、教
育施設も充実しています。主
人は、近くにゴルフ場がありま
すのでたいへん喜んでいま
す。幕別温泉も利用しましたが、
良い所ですし、買い物も近く
の店ですが安いです。また、
晴れた日が多く、とても住
みやすい町だと感じています。
これからは、近所づきあい
をたいせつにしながら、幕別
のことを勉強します。



戦後開拓者の 守り神

第47回
幕別お祭り
路傍の神——
開拓と信仰 ⑫
大豊神社

「入植時は、五町歩の畑、その時の夢は、十五町歩の畑を持つことだった。が今では、三十二町歩、まさかこんなふうになるとは思わなかったな」と、窓から雪原を見渡し、木村章さん(六十七歳)は、こうつぶやいた。

この大豊地区に香川県出身の木村さんは、帯広で終戦を迎え復員し、軍用地の大豊地区が解放(払い下げ)された昭和二十一年の春に戦後開拓者として入植した。

当時大豊地区は、三千ヘクタールの軍用地であり戦時中は、軍の爆弾演習場であった。その土地の入植は、一戸につき五ヘクタールを三千円から四千円で解放された。その時の木村さんの所持金は、国から頂いたわずか千円のみで、ここで何とか食べていければ良いと思っていた。

その時の入植者は、樺太、満州からの引き揚げ者、復員軍人、そして地元の人など約四十戸から五十戸、木村さんが三十一歳の時であった。

入植したころは、辺り一面雑草と柳で覆われたやちであり、二頭の馬でプラオを引かせるが、農業など経験したことのない人が多く往生していた。

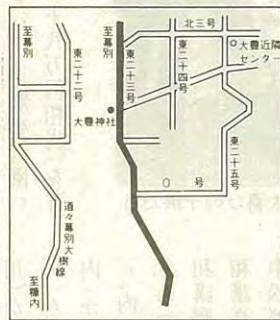
ある日のこと、阿部さんが馬で畑を耕していると、プラオに直径約二十センチメートルの不発弾が引つ掛かり部落の人には、安全と危険防止のためないしよで警察を呼び、近くの人たち数人とともにモッコで不発弾を近くの山の中に担いで運び、爆発させた。ところが事態を知らなかった木村さんは、畑で馬を使いあいかけを入れている時、急に「ドカーン」とものすごい音がした。驚いて立ち上がった馬を静止させるのに木村さんは、ひと苦労したそうだ。

入植した人たちは、自分の土地を畑にすることで忙しく、部落としてみんなが寄り合いを行う機会が少なかった。その後だからともなく「祭りか何かを行って」という話しがでてきたので、みんなが集まり話し合いをした結果、早速取り組むことになった。

最初は、部落で地神さんを祭ることになり太い大木を五角に削り、の五つの面にそれぞれ神様の名

前を書き、現在の菊地さんの西側付近の小高い所に立て、毎年九月二十五日にお祭りをするようになった。後にその土地が、他の人の配当地になりお祭りも、参拜もできなくなった。

昭和二十四年に神社を祭ることになり、現在の小高く柏の木が生



えている日野さんの土地を借用しお堂を作り金刀比羅神社の宮司である野瀬正浩さんに、金刀比羅神社から分霊して頂き、毎年九月十五日にお祭りを行っている。

その時、神社御堂造営総代に山崎欽司さんが当たり、賛同者は、四十七名、寄付金は、総額二万二千四百円であった。

※町歩＝面積の単位で約一ヘクタールである。

※爆弾演習場＝直径二から三メートル、高さ数十センチメートルの円柱を中心に二十メートル、五十メートル、百メートルの同心円を、石灰と、ホタテ貝の殻とを混ぜ合わせたもので線が描いてあった。そこへ帯広の軍用飛行場から飛んで来た軍用飛行機が、外観が鉄で、中にコンクリートを流し込んで、重さ、形、ともに実弾と同じくできている模擬爆弾で投下訓練を行っていたところ。

- 取材 小尾一彦(新和)
- 取材協力 木村 章さん

サーモン通信

37

昨年十二月にふ化した稚魚たちは、ふるさと館のジャンボ水槽を始め各小中学校、サーモンファミリーの各水槽で、順調に生長しています。各水槽とも餌づけに成功し、元氣よく泳ぐサケの稚魚でいっぱいです。

稚魚たちは、海に旅立つ日に備え水槽内で良く食べ良く泳ぎ回っています。この世界でも強い、弱い差が現れはじめ、強い稚魚は、水面まで上がって餌を食べようになりまし

ふるさと館では、例年どおり四月上旬に近くの途別川へ放流します。



放流の様子(写真は昨年)

各学校やサーモンファミリーでも三月下旬から四月上旬にかけて、近くの川へ放流する予定です。最近、「サケの放流と卒業を「新たな旅立ち」と結びつけ、卒業記念に、卒業生自ら放流する学校が増えて

ふるさと館で、サケ飼育を始めから五年がたちました。現在では、各小、中学校や各家庭でのサケ飼育も行われ、サケに対する関心が高まっています。

私たちは、サケの飼育を通して十勝の自然を学んでいると思っています。自然が健康であるか、どうかは、環境の変化に敏感な生き物を見つめていれば分ります。ふるさと館でのサケ飼育の目的は、そうしたところにもあります。

サケの飼育、観察を振り返りながら人と人間の明日を考えてみたいと思います。お客さまは、魚飼育の経験者五人のかたを予定していますがプロだけの話し合いの場にはたくありません。素朴な疑問などプロではない人の意見交換の場になりたいと思います。あなたもぜひ参加してください。

みんなで自然と魚を語ろう ふるさと館雑学講座

テーマ……十勝の自然と魚

とき…昭和59年3月24日(土)

午後1時から

ところ……働く婦人の家(札内中央町)